



JICA草の根技術協力事業草の根協力支援型

# インドネシア中部ジャワ州の幼児教育における インクルーシブ教育実践モデル形成事業 事業完了報告

2019年7月13日(土)

一般社団法人こども支援チエルク  
代表理事（プロジェクトマネージャー） 松本美代子

事業名：  
インドネシア中部ジャワ州の幼児教育におけるインクルーシブ教育実践モデル形成事業

事業実施団体名：一般社団法人子ども支援チェルク  
(NGO CERC Japan)

分野：特別支援教育

事業実施期間：2017年4月3日—2019年4月30日

事業費総額：9,946,000円

対象地域：

中部ジャワ州 カランガニャール県（17郡中）カランガニャール郡、タシクマドゥ郡、チョロマドゥ郡

ターゲットグループ：

直接裨益者：県(1) 郡の幼児教育担当官(3) 郡の幼児教育監督官(3) 幼稚園園長(6) 幼稚園教師(12)  
事業調整員(1) 事業ファシリテーター(3)

間接裨益者：事業対象外幼稚園教師(約150名)、6幼稚園園児約300名、  
幼稚園家族数約300名、  
6村の地域住民 37,000名(乳児健診ボランティア、保健所含む)



事業地

# インドネシア州区分地図



Central Java

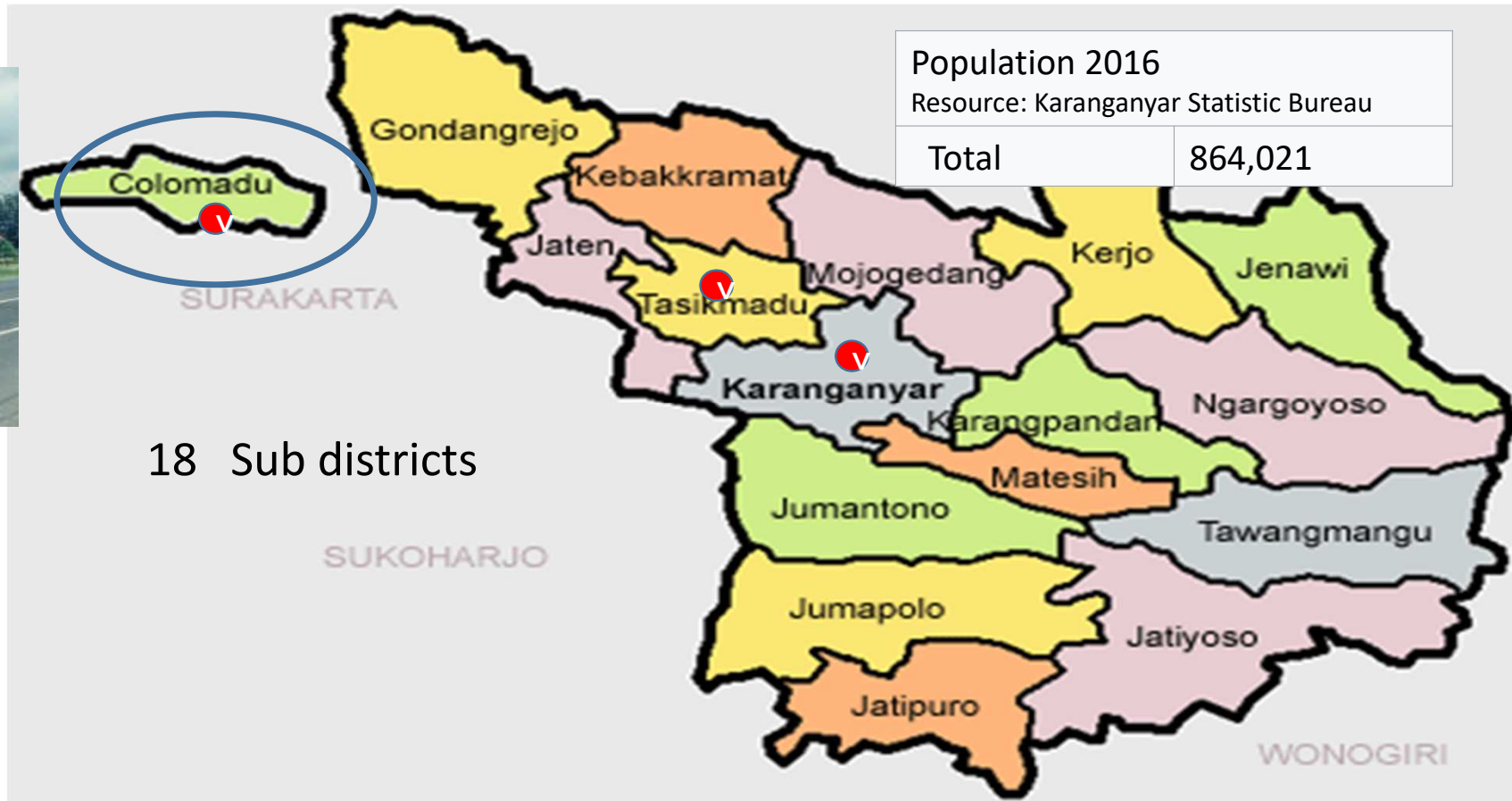


Karanganyar District

Surakarta City (Solo)

Yogyakarta

# CBR-DTC



Colomadu : 80,110  
Village:11

Kindergarten:41  
Child:1642 Teacher:126

Tasikmadu : 59,903  
Village:10

Kindergarten:35  
Child:1429 Teacher:120

Karanganyar : 79,550  
Village:12

Kindergarten:56  
Child:2865 Teacher:233





Masyarakat Inklusi

カラガニヤール県の子育て支援資源

幼稚園



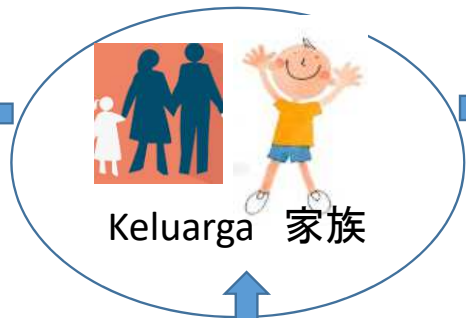
幼児教育  
幼稚園  
プレーグループ

HIMPAUDI .  
IGTKI Gugus



特別支援学校  
幼稚部

県内公立1校:幼稚部  
の在籍0人 理由は?



Keluarga 家族

医療・セラピー

病院・クリニック  
PT, OT, ST ,心理  
保険・貧困家庭への支援



村長、保健所(助産師)、婦人会(乳児健診ボランティア) 住民集会  
地域の子育て力は強い。子供の育ちへの婦人会の関与は強い



## 乳児健診の様子 チョロマドゥ郡 パウラン村

- 村の婦人会のボランティアの婦人たちが運営、月1回実施
- 場所は民家の庭先、村の集会所等適宜選ばれる
- 保健所職員と共同で行う  
専門的な助言は助産師が行う  
予防注射の実施  
高齢者の健康相談、チェック  
(集団予防注射：保健所医師が幼稚園に出向く)
- 自由参加(誕生日に関係なく、乳幼児ならば参加可)



## 発達の状態への指摘、支援

- 助産師による助言（病院に行くこと、セラピーを受けること等）
- 婦人会のメンバーによる自然な助言（知識量が少しずつ増えている）
- 村により、個人(助産師、ボランティア)により対応は大きく異なる。

## プロジェクト目標

カランガニャール県3郡内の6幼稚園において、  
地域住民の障害理解が増し、  
『インクルーシブ教育実践モデル』が形成される。

## 上位目標 (Overall Goal)

カランガニャール県3郡内で実施したインクルージョン  
実践モデルが、カランガニャール県内の他郡の幼稚園に  
普及される。



## アウトプット (Output)

1. 事業対象幼稚園教師(12名)が、インクルーシブ教育の実践技術を身につける ●12名が5段階評価の3段階以上に到達
2. 事業対象幼稚園教師(12名)と園長(6名)がトレーナーとして養成され事業対象外の幼児教育関係者に、インクルーシブ教育実践モデルを広めている。 ●トレーナー18名が研修会で研修講師となる。 ●Gugus研修会：延べ14回  
●研修を受けた事業対象外150名以上の教師の理解度が5段階評価の3段階に到達。
3. 地域住民の、「インクルーシブ教育」の理解が向上する。  
●集会参加(5村) 前期165名 後期241名 幼稚園のインクルーシブ教育賛成者90%以上
4. 本事業の「インクルーシブ教育実践モデル」が対象地域内において認められるとともに、情報が事業対象外に広まる。  
●2018年12月(1日)、2019年3月(3日間)研修会の事業外教師参加者156名/200名  
(行政関係者、乳児健診ボランティア、保健所助産師、特別支援学校教師、OT養成校教官、本事業関係者など)

## 何故、**幼児期のインクルーシブ教育**の支援をするのか？

- 経済発展とともに、2000年初頭からの幼児教育就園率が上昇
- 幼児教育の発展は、インドネシアの国家政策の一つである。
- 2009年より、小・中学校(義務教育)でインクルーシブ教育開始  
数年で公的支援が終了するなど、恒常的ではない場合がある。
- 教育省は2017年「幼稚園はスペシャルニーズを持つ子どもの入園を拒んではならない」と幼稚園に対し、努力目標を掲げている。
- 2018年教育省は要項を作成したが、手にした園長は内容が難しいとの意見を述べた。教師は何をしようかわからない。
- カウンターパート (CBR-DTC)**のよりCERCに要請  
「幼少期からのインクルージョンは、社会の障害への偏見を軽減するための有効策の一つである」

## 課題

- 障がいの医療モデル⇒治して普通に近づけるものという考えが強い
- 幼児教育は、画一的な教育が主流である
- 障がいのある子どもへの教育、治療は専門家の仕事。幼稚園教師の担当ではない。

## 本事業のインクルーシブ教育実践モデルが目指すこと

### 事業を通して、教師・事業関係者に、伝えてきたこと

- 教師の役割は、Core group(母集団)を育てること
- 活動(遊び)を通して、子どもの好奇心や達成意欲を刺激する工夫をすること
- それらの活動を通して、子どもは、「達成による自信」、「自己調整」を学ぶ
- 異なる個性を持つ子どもがいる集団は、最初は動揺し、問題も生じる。  
↓
- インクルーシブ教育は、問題解決のプロセスの連続。
- 子どもは、大人(教師)の態度から「異なる子供」を「好ましい仲間」と理解していく
- 異なる参加の仕方、存在の仕方を、少しずつ理解していく
- インクルーシブなクラス(集団)に育つには、時間が必要  
教師の研修：座学以外に、インクルーシブな活動の試行錯誤を通じた「気づき」の積み重ね。(目標は30年後のインクルーシブな地域社会)

## <本事業で求められるインクルーシブ教育の教師像>

- ①落ち着いた母集団作りを目指す教師
- ②個の特性に応じた教育目標を設定する教師
- ③特別なニーズを持つ子どもとの信頼関係をつくる教師
- ④クラス内での子どもの承認する教師(1日10分ABKとの楽しい時間)
- ⑤コミュニケーション技術を日々磨く教師 (インリアルアプローチ)
- ⑥インクルーシブクラスを育む活動の実践をする教師
  - ・絵本の読み聞かせ、絵本カリキュラム
  - ・社会性ゲーム(例 椅子取り、フルーツバスケット：順番,交代,見通し,励まし,達成,好奇心,集中,楽しさ.)
  - ・多様な目標を設定できる造形活動
  - ・クリエイティブ音楽ムーブメント、リトミック等

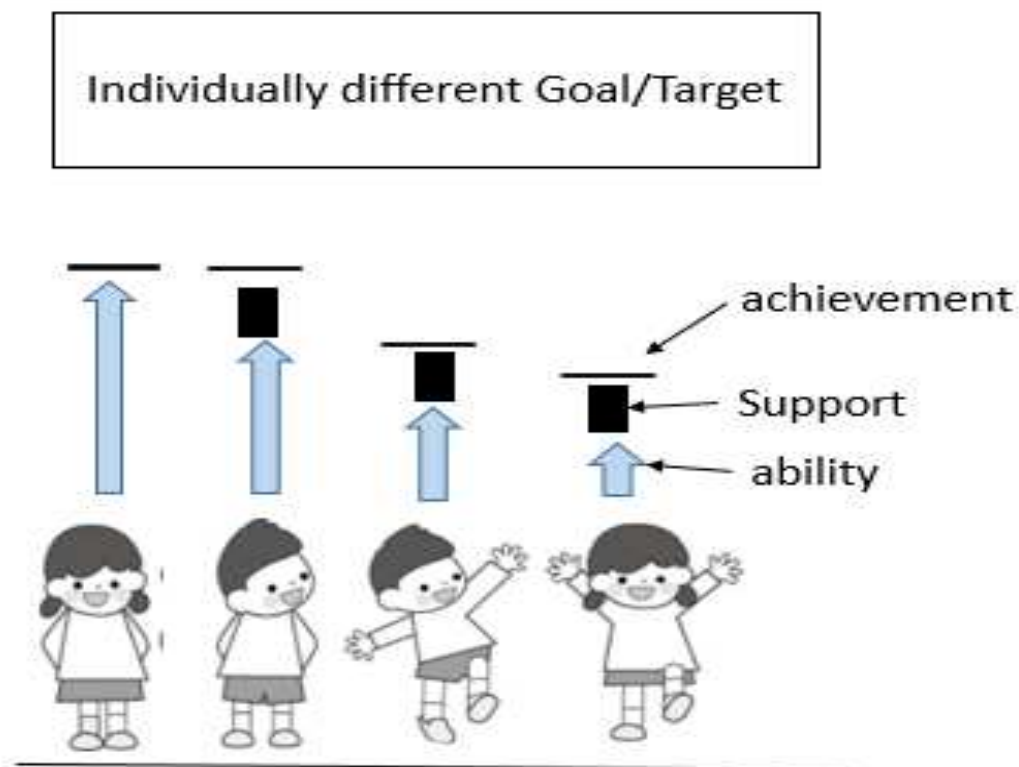
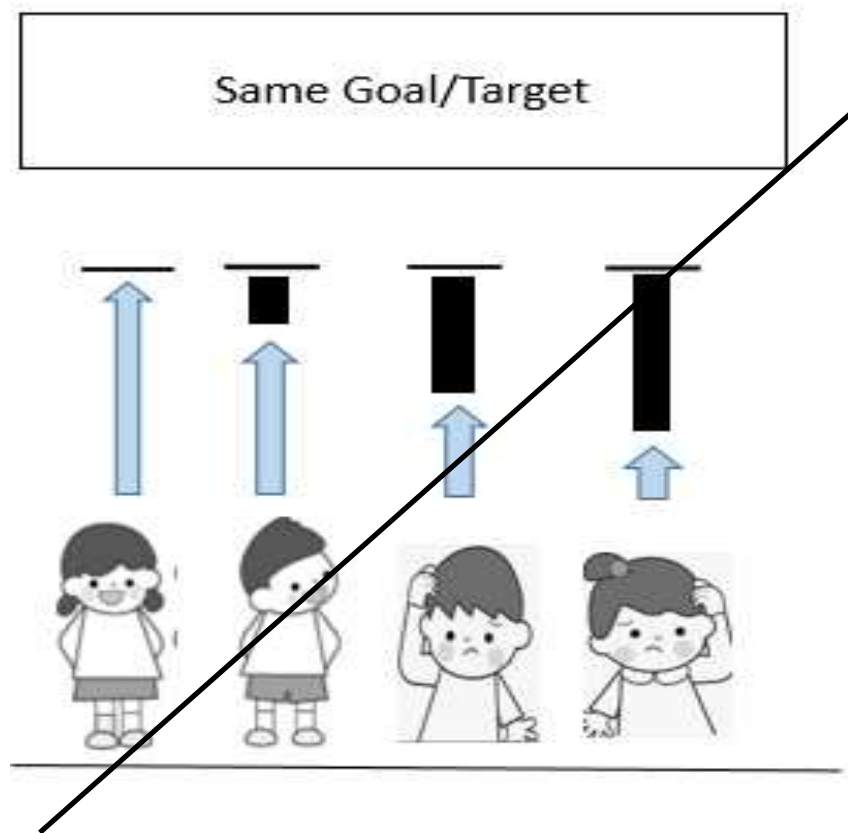


## 個別の目標を考える

不得意の裏返しに得意な面があるはず

発達速度・学び方の個人差を認める

子どもの興味、長所を見つけよう！



# 活動—指標—結果

## 1. 事業対象幼稚園教師(12名)が、インクルーシブ教育の実践技術を身につける

指標： 週1回以上インクルーシブ教育の技術を実践している

### <研修>

●事業ファシリテーター、コーディネーターの研修：事業内35日間

●研修：2017年8月1日(園長対象で、アンケートを実施。114幼稚園内から8幼稚園を選択。最終7幼稚園。

●事業対象幼稚園対象の研修開始

・2017年9月16日・17日：インクルーシブ教育概論、多様な子どもが楽しめる活動—絵本の読み聞かせ

・2017年12月15日・16日：母集団を育てる意味と方

Grade	5	4,5	4	3	計
数	2	1	7	2	12

実技指導：音楽・ムーブメント、造形教育 **12名の到達度**

・事業ファシリテーターが幼稚園の活動に参加する(各幼稚園週1回)

幼稚園訪問 延回数 (2017年8月—2019年3月)					
郡	幼稚園名	訪問回数	延子供数	延教師	延園長
K	karanganyar公立	38	669	62	12
	Alam Anak	44	677	81	14
T	Tasikmadu公立	31	373	45	15
	Mutiara Hati	36	901	67	16
C	Tohudan	39	661	64	13
	Klodran	36	914	61	15
	Sanggir	41	752	53	12
	total	265	4947	433	97

### <プロマネ・事業ファシリテーターによるOJT>

OJTの実施	回数	対象教師	園長参加	子供数
ファシリテーターOJT	15	20	2	256
プロマネOJT	24	31	19	461
OJTフィードバックミーティング	18	15	2	0
合計	57	68	23	717

養成された18名トレーナー内訳	
Grade A 講演講師・実践活動講師	3名
Grade A 講演講師	2名
Grade A 実践活動講師	2名
Grade B 講演講師	5名
Grade B 実践活動講師	6名

2. 事業対象幼稚園教師(12名)と園長(6名)がトレーナーとして養成され  
 事業対象外の 幼児教育関係者に、**イクループ** 教育実践モデルを広めている。  
 指標：研修講師となる回数が各郡で5回以上

## <研修会>

- 2018年8月30日・31日(2日間)：「障害」について、関わり方の配慮点、母集団を育てるための、様々な活動：造形活動、音楽・ムーブメント、リトミック、社会性を育てるゲーム活動、絵本の読み聞かせと絵本を活用した活動ー劇遊びなど
- Gugus**を活用した研修会での講師(1郡に約5ー6グループ。月1回1-2時間の集合し情報交換)
- 2018年12月15日 実践発表会にて、事例報告での講師(5名)
- 2019年3月18日・19日、20日(県内17郡から各5名ー6名の園長100名が対象 **県内555幼稚園**)  
 県教育文化局、県幼稚園協会(IGTKI)と共同開催。場所：県教育文化局内セミナールーム。

Gugus実施回数(参加数)			
郡名	回数	延幼稚園数	延参加教師数
Karanganyar	5	36	186
Tasikmadu	7	36	224
Colomadu	2	17	53

養成された18名トレーナー内訳	
Grade A 講演講師・実践活動講師	3名
Grade A 講演講師	2名
Grade A 実践活動講師	2名
Grade B 講演講師	5名
Grade B 実践活動講師	6名

トレーナーの実践			
	Gugus	12月実践発表会	3月研修会
K	4回	1名	6名
T	5回	2名	5名
C	2回	3名	8名

Grade A: 研修講師として十分実践が可能。 Grade B:他の講師と共同で実践が可能であり、今後の成長が期待できる。

## 成果1, 2の好事例

- スペシャルニーズを持つ子ども（ABK）の否定的な言及が多かったが、後半には子どもの変化を言及することが増えた。  
例：〇ができるようになった。友達とお弁当のおかずを交換していた。

- シャドーティーチャー（Shadow Teacher）を雇い入れた例

（シャドーティーチャー(Ste)）：保護者が雇い入れる。わが子への個別サポート職員。通常OT,ST等の職種が選ばれる）

- Steとの個別指導的な対応が増えるに従い徐々に、本児の集団への参加度が減少。
- クラス担任の判断：本児は友達との交流を楽しみたい気持ちを持っているが、なかなか参加できないではないか？
- クラス担任・園長との話し合い：Steの役割の確認。個別指導よりも、本児の意図を読み取り、集団に参加する支援を工夫する。  
教育者の専門意識が良好な事例である。

- ABKのレポートを事業関係者に報告するとき、「できないこと」言及ではなく、「変化」についての言及が多くなり、教師の笑顔が増えた。
- 2019年3月の研修会では、各々が自身の経験を紹介していた(トレーナー)最初は大変だったが、子どもの成長がみられるので、みんなも頑張っ  
てほしいというエールが多かった。自分自身の差別的な意識が変わっ  
たことを共有した教師もいた。



### 3. 地域住民の、「インクルーシブ教育」の理解が向上する

指標：事業対象6村でのPRA回数 ※1村に2幼稚園があり、事業対象は5村である。  
 村の乳児健診関係者などがインクルーシブ教育に賛成する割合が2/3に達する  
 好事例が増える

**PRA回数** 参加型村落評価（Participatory Rural Appraisal）村の集会に参加し、障害者を含めた村人自身の手によって障害者と社会資源の地図作りなどを行い、ファシリテーターの協力のもと障害者問題を話し合っていく。

PRA 住民集会	前期 2017 Q2,Q3						後期 2018 Q4					
	日程	時間	村長	委員	他	etc	日程	時間	村長	委員	他	etc
K Bejen	9/13	10時-	1	5	29		3/21	10時-	1	3	39	
T Ngijo	11/11	10時-	1	2	27	助産婦	2/18	10時-	1	3	43	助産婦
T Gaum	9/6	15:30	1	4	42	助産婦4、郡 行政官、JICA2	2/13	15時半	1	3	45	助産婦
C Sanggir	9/29	15:30	1	2	24	助産婦	3/21	16時-	1	4	58	助産婦 JICA2
C /Paulan Tohudan	11/23	10時-	1	3	22	助産婦	2/27	16時-	1	3	36	助産婦
			5	16	144	計165			5	15	221	計241

＜質問紙の質問＞5村 90%以上が賛成

- ①一般の幼稚園にABKを受け入れることを了解する
- ②我が子がABKと遊ぶことに反対はしない
- ③市民として障害を持つ子どもの家族も含めて助け合う
- ④インクルージョンは全ての子どもに教育を受ける権利を擁護し、幼稚園、特別支援学校の幼稚部等、選択することができることである。
- ⑤幼稚園は多様な子どものニーズに合わせた教育を提供する・子ども達は（ABK, NonABK）は学びあう
- ⑥幼稚園で子ども達は多様性を受け入れることを学ぶ  
 子どもの力に合わせた教育目標の設定が大切

#### 事業ファシリテーターの地域活動

	婦人会集会		乳児健診			家庭訪問	
	回	参加者	回	ホラ数	親子	回数	人数
K郡	2	46	6	31	116	19	33
T郡	5	260	7	33	223	36	72
C郡	6	292	6	58	176	20	45

# 成果3 好事例

<https://www.jica.go.jp/tokyo/topics/2018/ku57pq0000jgqu4.html>



## 大切なのは、「どんな子どもでも認めること」

## 2018 トピックス JICA東京



障害を持つ子供の母親から聞き取りを行う松本氏（中央）。一人一人と丁寧に、言葉を交わします。

日本で30年以上、幼稚園や特別支援学校での指導を行ってきたプロジェクトマネージャーの松本氏が、現地の幼稚園教師に繰り返し伝えていることがあるそうです。それは、「一日一つでも、それぞれの子供たちの良いところを褒める」ということだと言います。障害のあるなしに関わらず、誰でも得意、不得意なことがあるのは自然なこと。皆同じゴールを目指す必要はありません。異なるゴールでも、子供たちにとって達成の喜びは同じです。障害を一つの「個性」としてとらえ、その「個性」を周囲の人々が認め、子供たちの良いところを認めてあげる、そのような社会が、インドネシアだけでなく、日本でも求められているのではないのでしょうか。

### 地域力で幼稚園に通えるように

草の根事業の中では、障害のある子どもも参加しやすい造形、音楽活動や、絵本の読み聞かせが出来る幼稚園教師を育成しました。その一方、地域社会に向いて村人に向けた啓発活動や、障害のある子どもの家庭訪問も行っています。

ロジさんとこども支援チェルクのスタッフが出会ったのもこの家庭訪問がきっかけです。家庭訪問でアンディカ君の状況と、ロジさんの願いを聞いたスタッフは、アンディカ君が幼稚園に通えるようになるよう、村長や助産婦などに協力を依頼しました。そして地域ぐるみで幼稚園に交渉し、通園に必要な初期費用を村が負担、その後はロジさんが幼稚園の掃除をするという約束で入園が叶いました。夢だった幼稚園生活は2カ月という短い期間でしたが、アンディカ君は、クラスメイトと一緒に絵本の読み聞かせや工作、音楽などたくさんの活動を楽しみました。



右がアンディカ君。歩行は困難ですが、クラスメイトと仲良く遊んでいました。



アンディカ君のおじいさんのロジさん

4 質の高い教育をみんなに



すべての人々に包括かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



#### 4. 本事業の「インクルーシブ教育実践モデル」が対象地域内において、認められるとともに、情報が事業対象外に広まる。

研修会に参加した、事業対象外の幼稚園教師の50%以上がインクルーシブ教育実践モデルを良いと認める

幼稚園数130 応答数156

- ①全ての子どもの多様なニーズ、特徴に合わせた教育を提供するべきだ。
- ②特別なニーズを持つ子どもを自分のクラスに受け入れることは問題だ。
- ③インクルーシブ教育の実践は全ての子どものためになる。
- ④教師が、誰もが楽しめる活動をクラス全員の子どもに提供することはとても大切だ。
- ⑤多様な子どもがいるクラス集団を育てることは教師にとって大切な役割だ。
- ⑥教育の発展のために、インクルーシブ教育は全ての子どもにとって有益だ。
- ⑦インクルーシブ教育実践において、個に応じて他児と異なる教育目標や結果を設定することは大切だ。

	%	
賛成	95	1035
不賛成	2	23
どちらとも言えない	2	21
回答なし	0.9	10

#### 月1回開催の乳児健診でのボラアンティアの態度の変化

- ①障がいのある子どもを育てる母親への支援 「毎月遊びにおいで」
- ②ボランティア自らが、子どもと一緒に遊ぶ場面がみられるようになった。
- ③「〇〇ができるようになったね」と一緒に喜んでくれるようになった。

#### 4-3 地方行政によるインクルーシブ教育推進のための好事例が発現する

- ①2018年12月実践発表会：カランガニヤール県教育局長、幼児教育担当官、事業対象3郡の教育関係者、保健所職員、計9名が参加した。
- ②カランガニヤール県幼児教育担当官（半日参加）、スラカルタ市行政の幼児教育担当官（一日参加）は、本研修会は、理論に添った実践内容があり、幼稚園教師にとって有効であることを言及した。
- ③3月18日、19日、20日研修会。Karanganyar県教育文化局と幼稚園協会が本事業と共同して3日間の研修会を開催した。会場は県教育文化局からセミナールームを無料で提供された。
- ④Karanganyar県教育文化局長が研修会の実践活動中に通りがかり、参加者に挨拶スピーチを行い、参加者が大変喜んだ。
- ⑤3月20日閉会式では、局長がスピーチで、今後の研修会の継続を県が行うことを、参加者の前と言及した。

4-4 本事業で「インクルーシブ教育実践マニュアル」を作成し関係者に配布する、幼稚園の数、子育て関係組織の数。マニュアル(実施要項)を含む全ての情報を公開。

<http://cbr-dtc.ypac-nasional.org/seputar-proyek-tk-inklusi/>

## 地方行政(県・郡)と本事業との連携

事業スタッフと地方行政との関係構築		
県教育文化局	訪問	研修会等参加
局長	1	3
次長	7	1
幼児教育担当官	7	2
幼児教育次長	6	
幼稚園協会長*	6	3
*公務員だが行政官ではない		

郡教育局	訪問	研修会等参加
Karanganyar郡	11	1
Tasikmadu郡	11	2
Colomadu郡	11	1
幼児教育監督官	12	6



## CERCによる投入

- 人材：インクルーシブ教育スーパーバイザー  
音楽・ムーブメント指導員  
造形教育教師
- 実習室教材等
- 幼児教育教材等
- 絵本、絵本の読み聞かせの知識と技術  
Storybook Curriculum
- クリエイティブ音楽・ムーブメント
- 誰でも楽しめる「造形保育」
  
- 共立女子大学の協力  
絵本の翻訳貼り付け活動・マニュアルのイラスト

## 提供した教材

- ・絵本(各幼稚園に約15冊)
- ・布
- ・乳幼児の発達冊子(健康局)、幼児の発達冊子(教育文化局)  
Anak Unik(ユニークな子ども)オランダのNGO Suka Cita発行  
絵本カリキュラムハンドブック(CERC発行)、  
窓際のとっちゃん(インドネシア語)
- ・CBR-DTCへ:子ども図書室(約200冊)  
—絵本を地域の幼稚園へ貸し出し

## 成果物

- ・インクルーシブ教育マニュアル(実践要項)
- ・ポスター
- ・リーフレット ウェブサイト開設

## 現地からの学び（私たちの主観的な印象ですが・・・）

- 時間概念の異なり  
「段取り」、「期限」が日本とは異なる  
例 5歳児のクラスに4歳、5歳、6歳、7歳・・・が存在。  
5歳で小学校に入る子どもがいる・・・。  
到達度によって学年が決まる。（到達度テスト）
- 幼児教育に、到達度テストがある（一斉テストではない）  
教師に、成績表を12月に保護者に提出
- 地域の子育て力が強い 女性の役割、男性の役割  
(夕方の幼稚園 近所の熟年の女性が運営、乳児健診ボランティア、集会が多い、  
楽しいことが多い)
- 行政、政治に参加する女性が日本より多い



ご清聴ありがとうございました  
Terima kasih banyak